

# 研究協力をお願い

昭和大学病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

## 固形がんの抗悪性腫瘍薬に対する治療耐性化メカニズムに関わる因子の検討

### 1. 研究の対象および研究対象期間

2003年4月1日から2025年12月31日まで昭和大学病院で固形がんと診断された患者さん。

### 2. 研究目的・方法

固形がんの多くは、診断時に遠隔転移を認める場合や手術をした後に再発した場合は、治療成績が著しく悪いのが現状です。術後に再発した症例や遠隔転移を有する症例に対しては、抗悪性腫瘍薬(抗がん剤)を用いた治療を行います。ほとんどの症例で抗がん剤が著効せず耐性化します。我々は抗がん剤治療の耐性化に関わる分子(タンパク)を明らかにしてきました。これらの分子が実際の臨床研究でも抗がん剤治療の耐性化に関与していることを明らかにすれば、その分子をターゲットとした新規治療法開発につながる可能性があると考えられます。そこで固形がんの病理標本で免疫組織化学染色を行い、これらの分子の発現を評価します。さらに病歴や治療内容、転帰といった情報を解析し、実際にこれらの分子の発現が抗がん剤に対する耐性化に関わっているかについて検討します。

### 3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2026年3月31日まで

### 4. 研究に用いる試料・情報の種類

病理検体(病理組織ガラス標本、病理組織ホルマリン固定パラフィン包埋ブロック、病理組織凍結標本、病理組織ホルマリン固定標本など)

病理診断に付随する資料(病理検査報告書、病理検査依頼書、検体組織画像、検体肉眼画像など)

診療録(カルテ)情報 患者背景(年齢、性別、身長、体重、診断名、既往歴、病歴)、臨床検査データ、臨床画像検査データ、臨床経過、抗悪性腫瘍薬の治療歴、治療効果、転帰など。

**5．外部への試料・情報の提供**

本研究の試料・情報は、研究機関(学校法人昭和大学)の外部へ提供されません。

**6．研究組織**

研究機関：学校法人昭和大学

この研究には、共同研究機関(学校法人昭和大学以外の研究機関)はありません。

**7．お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先(研究責任者)：

所属：昭和大学医学部内科学講座腫瘍内科学部門(昭和大学病院) 氏名：大熊 遼太郎

住所：142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8 電話番号：03-3784-8402(旗の台、腫瘍内科医局)